

二〇一八年度 トキワ松学園中学校入学試験
適性検査型 適性検査I B 問題用紙

受験番号

開始と同時に受験番号を
書き入れなさい。

次の[A]と[B]の文章を読んで後の(1)～(10)の各問いに答えましょう。

[A]

人間は、さまざまな人とのつながりの中に、一体何を求めているのでしょうか。この大切な問題を考えるための基礎作業として、最初に人とのつながりについてすこしつっこんだ考察をくわえてみましょう。

一口に人與人とのつながりといっても、大きく分けて二つの種類が考えられるのです。一つは人とながら、つまり人間関係をつくることによって、自分にとっての利得や利益と言ったものを得ようとする場合、つまりつながることそのものに目的があるのではなく、目的はあくまでつながりの外にある場合です。お金もうけのため、自分の出世のためなどに人々関係を作って行こうとする場合が考えられます。

もう一つは人とながらることそのものが目的であるような場合です。この人といると何となく楽しい、気が合う、ホッとするとといった友だちとの関係、あるいは親子に代表される家族の関係などは、損得や利害をこえたつながりといえます。もつともつながりのこの二つの性質は、現実の生活においては重なっている場合も多いのです。友だち関係を良くすることで試験の時にポイントを教えてもらえらるか、仕事上の付き合いなのだけれど、とても 1 が合うのでいつのまにか親友のように話ができるようになるとか、いろいろ考えられます。けれど人間関係の本質をきちんと考え直すためには、この二種類

のつながりをいったんは概念的に区別して考えた方がいいのです。

そして、2第二のつながりの性質、つまりつながりそのものが目的となるような人間関係の本質を「交流」というキーワードで言い表そうと思います。

さて、私たちは人與人とのつながりにおいて、いったい何を求めているのでしょうか。それはやはり「幸せ(幸福)」になることであると私は考えています。ただし一言で「幸せ(幸福)」といっても、人とのつながりをいわば利用し手段とすることによって自分だけの幸福を求めようとする場合もあれば、人とながらることそのものを味わう、つまり人との心からの交流を求めることによって、「幸せだなあ」という実感を得ようとする場合がありますよね。

人間はいろいろな考え方はあるけれども、やはり自分が、さらに自分の周りの人も含めて幸せになりたいということが、「生きる」ということの一核となっていてのだと私は思うのです。さらにいえば、自分一人だけで幸せを得るよりも、身近な人たちを中心にできれば多くの人と幸せを感じることができれば、その方が人はより大きな幸福を味わえたことになるのではないのでしょうか。

「友だち幻想」菅野 仁

友だちどうしで「批評」がしあえる、というのは、じつは、互いに「自己ルール」を交換しあっているということです。「自己ルール」とは、その人がいつの間にか身につけている「よい―悪い」のルール、また「美醜のルール」です。「美醜のルール」は簡単に言うと各人が身につけた美的センス、美意識です。自己ロマンの強い人は美醜のルールが強く形成される傾向がある。

ともあれ、高校くらいまでに、人間は、自分の「よい―悪い」と「美醜」のルールを形成していく。そして「自己意識」が強くなるにしたがって、それでいろんなものを「批判」（趣味判断）するようになる。でも、大事なものは、いろんなものを「批評」しあうことで、友だちと自分の「自己ルール」を交換しあい、①タシカメあい、そしてそのことでそれを調整しあっていくということです。

これはちやうど「哲学のテーブル」で、いろんな人が自分のよいアイデア（原理⇨キーワード）を出しあってあれこれ言いあい、そのことでその「原理⇨キーワード」をだんだん鍛えてゆくと、同じ原理なのです。

じつは、友だちとのこういった「批評」しあう関係によってしか、人は、自分の「自己ルール」を理解することはできません。よく、「他人こそは自分を写す鏡だ」と言います。人間は他人を通してしか自分を理解することはできない、と。その通りですが、その意味を、哲学的に言うこんな具合になります。

われわれは誰でも、自分だけの善悪・美醜の「自己のルール」を、いわば感受性のメガネとしてかけている。そしてそれは長い時間をかけて形成されたものなので、だれもこのメガネを②ハズすことはできない。もし青いメガネをかけていたらすべてが青っぽく見える。メガネのレンズが少しゆがんでいたら、すべてがゆがんでみえる。でも、われわれがこのメガネをはずせないなら、それがわれわれにとっては正常な世界です。

つまりふつうは、自分のメガネがゆがんでいるのか、色がついているのか、だれにも決して分からない。このことに気がつくのは、他人が見ているものと自分が見ているものとの違い、偏りに気づくときだけです。これを「視線の偏差」とか「視差」と言います。

【1】われわれが、自分の好き嫌い、つまり趣味判断だけで生きていけば、「自己ルール」の形がどうなっているのか、理解することはできない。「批評」しあうことではじめて、人は自分の「良し悪し・美醜」のルールが他人と違うことに気づき、またそれを交換することができるのです。

（中略）

人間にとって他者の存在は、生きることの根本要素です。他者は、一方で、自分に「 」を与えてくれる唯一の源泉だけれど、また、反対に、 、つまり自己価値を奪いうる唯一の存在でもある。動物なら、自分が されているかどうか気にかけないが、人間はそうではない。

この観点からは、だれにとつても他者は、最も極端な両極の意味を持つている。つまり他者は、ある場合には、承認の正反対で、自分を完全に否定する、つまり殺しうる脅威※4きょういある存在でありうるし、しかし一方では、自分にとつて、生きる上でどうしてもほかの人と取りかえられない、かけがえのない存在になる可能性ももっています。

ともあれ、そんな具合で、人間はいろんな他者と関係を作りながら、承認ゲームを生きていく。できるだけ気持ちのよい他者との承認ゲームを作るべく人は生きていくのですが、どんなゲームが自分にとつてよいかは、人によって違うし、また個人が事前にそれを知っているわけではない。人間の生はそういう二二で進んでゆくのです。

重要なのは、このとき、さまざまな他者と関係を作る土台になるのが、それぞれの「自己ルール」だということです。

それぞれが自分なりの「自己ルール」を、とくに親子関係の中で作り上げている。それがその人の感受性、美意識、そして倫理観※5りんりかんです。そして、人が他者とつきあうとは、それぞれの「自己ルール」が交わりあい、大なり小なりたがいにそれを調整しあいながらやっていく、ということなのです。だから、ある人の「自己ルール」が具合が悪いと、相手の「自己ルール」とうまく調整できません。

【2】、わがままに育てられた人は、独善的※6どくぜんてきな「自己ルール」をもち、人にそれを押しつける態度をとり、無意識に他人はそれを認めて当然だと考えてしまう。逆に、親からしっかり愛情と承認を与えられなかった人は自信がなく、防衛的になり、互いに自然な配慮※7はいいりよや親和

感を交換することができない。自己ルールが分裂※8ぶんれつしている人は、つねに自己欺瞞※7ぎまん、虚偽※8きょぎの意識や無力感をもつことになる。

「中学生からの哲学『超』入門」竹田青嗣※9せいじ

※1 概念的：個別の特徴は問題にせず、共通性だけをとりだしてあつかう様子。

※2 美醜：美しいことと、みにくいこと。

※3 ロマン：うるおいや安らぎを求める世界。またはその心。

※4 脅威：力のある何者かにおどかされること

※5 倫理観：道徳観や善悪の基準。

※6 独善的：ひとりよがり

※7 欺瞞：うそをついてだますこと

※8 虚偽：うそやにせもの

(問題作成にあたり、一部本文を変こうしています)

(1) 1 の中に当てはまる動物を表す漢字一文字を入れ、「いっしょに何かをする相手と気持ちがぴったり合う」という意味になるようにしましょう。

(2) 本文中——線部1「親友」と同じ構成(組み立て)の熟語を次のア～オの中から一つ選び、記号で答えましょう。またその構成の種類を後のA～Eの中から一つ選び、記号で答えましょう。

ア 未熟 イ 増減 ウ 射的 エ 難問 オ 収納

A 上の漢字が下の漢字の意味を打ち消している熟語

B 上の漢字が下の漢字の意味をくわしく説明している熟語

C 上の漢字と下の漢字の意味が似ている熟語

D 上の漢字が主語で下の漢字が述語である熟語

E 上の漢字の下に目的語がくる熟語

(3) 本文中——線部2「第二のつながりの性質」とありますが、それはどのようなつながりのことですか。次のア～エの中から最も適切なもの一つを選び、記号で答えましょう。

ア 自分にとっての利得や利益を得ようとするつながり

イ つながりそのものを味わう、利害や損得をこえたつながり

ウ お金もうけや、自分の出世のために作っておくつながり

エ 関係を利用し手段とすることで、幸せを得るつながり

(4) 本文中——線部①「タシカメ」を漢字と送りがなで書き表しましょう。また、——線部②「ハズ」(す)を漢字に直しましょう。

(5) 1 2 に当てはまるつながりの言葉を次のア～エの中からそれぞれ一つ選び、記号で答えましょう。

ア しかし イ たとえば ウ もし エ だから

(6) 一 には同じ言葉が入ります。本文中より二字の熟語を見つけ、ぬき出しましょう。

(7) 二 に当てはまる四字熟語として最も適切なものを次のア～エの中から一つ選んで記号で答えましょう。

ア 羊頭狗肉 イ 試行錯誤 ウ 以心伝心

エ 日進月歩

(8) Bの本文中にある「メガネ」はこの場合、何のたとえとして使われていますか。説明しましょう。

(9) [A][B]の文章の内容として、合っているものは○、そうでないものは×で答えましょう。

1 [A]の筆者は、自分や自分の周りの人も含めて幸せになりたいと思うことが、「生きる」ことの一番の核だと述べている。

2 [A]の筆者は、二種類のつながりを区別しないことが、人間関係の本質をきちんと考え直す近道だと述べている。

3 [B]の筆者は、自己意識が強くなるにしたがっていろいろなものを批評するようになると、友人関係がこわれると述べている。

4 [B]の筆者は、他者は自分を完全に否定する存在であるとともに、かけがえない存在になる可能性ももっていると述べている。

(10) あなたは「他者とのつながり」をどのように考えますか。これまでのあなたの生活体験をあげながら、後ろの【注意事項】に合うように考えや意見を書きましょう。

【注意事項】

○ 解答用紙に三百字以上四百字以内で書きましょう。

○ 原稿用紙の正しい用法で書きましょう。また漢字を適切に使いましょう。

○ 題名や自分の名前は書かずに、一行目、一マス下げたところから書きましょう。

○ 三段落以上の構成で書きましょう。

○ 句読点（ 。（ ） やかつこなども一ますに数え、一マスに一字ずつ書きましょう。また、段落を変えたときの残りのマス目も字数として数えます。

